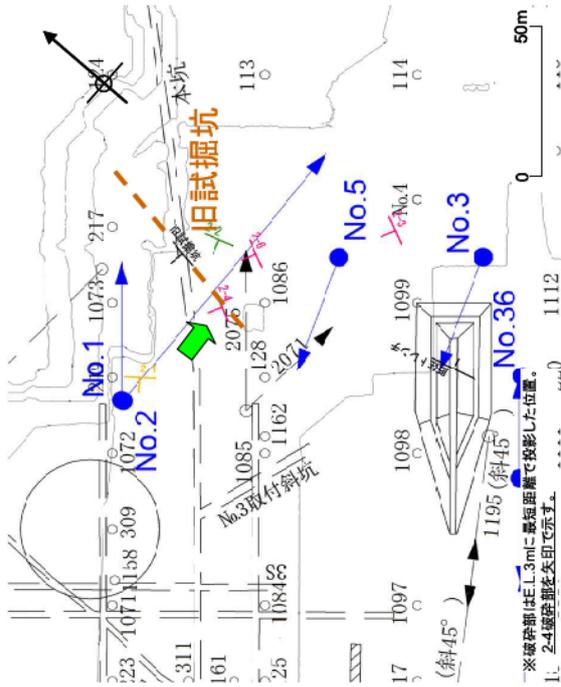
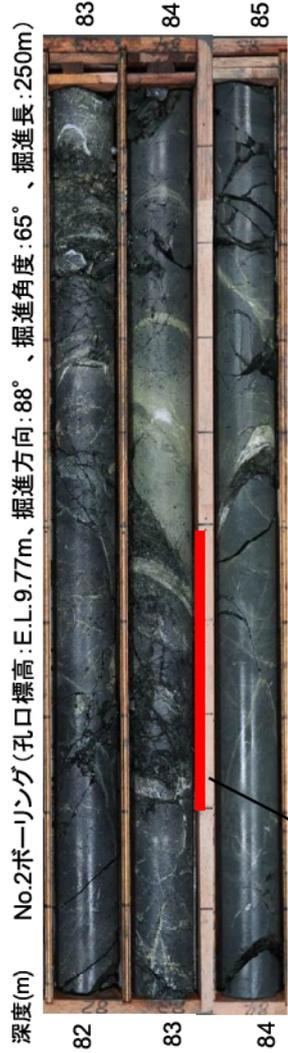


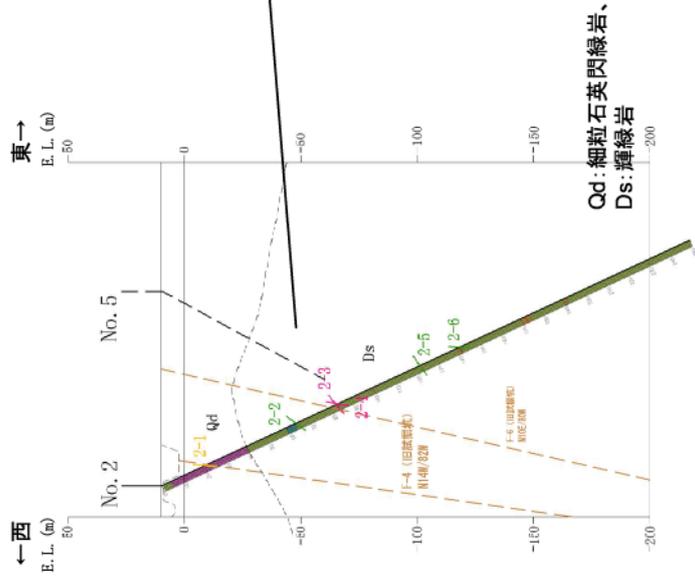
# F-6破碎帯(No.2孔)



深度83.20m~83.50m  
 ・輝緑岩中の幅約15cmの角礫状破碎部(N28E/81W)。  
 ・83.45mに幅0.5mmの灰色の細粒部を採み、  
 その周囲幅3cm~5cmは細片化する  
 ・83.43mまでは割れ目細かいが原岩組織残り、  
 割れ目沿いが細片化する



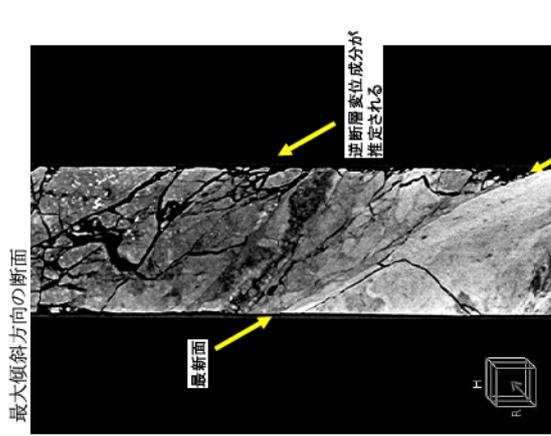
破碎部付近拡大



第 3.5.70 図 F-6 破碎帯 ボーリングコア観察結果 (No. 2 孔)

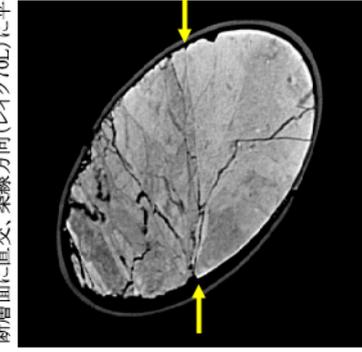
# F-6破砕帯(No.2孔 下盤上面)

## CT画像

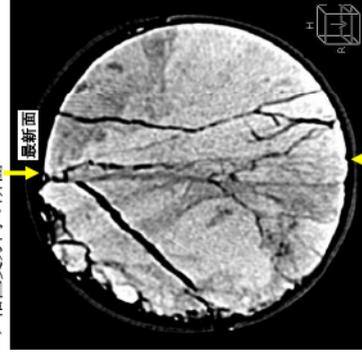


正断層変位成分が推定される

断面面に直交、糸線方向(レイク70L)に平行な断面



コア軸直交方向の断面

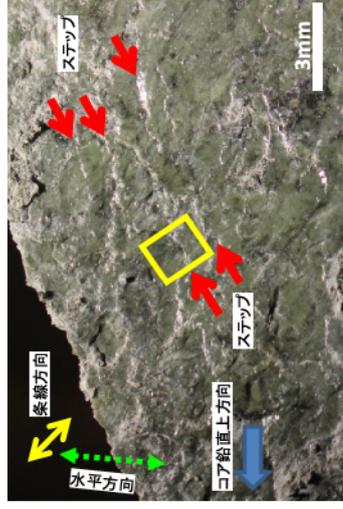


右横ずれ変位成分が推定される

## 糸線観察



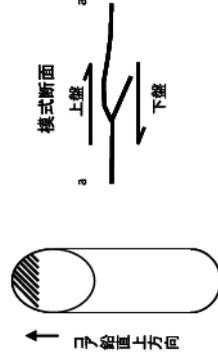
No.2 83.50m~83.62mの断層面(下盤上面)



断層面上に見られるステップ



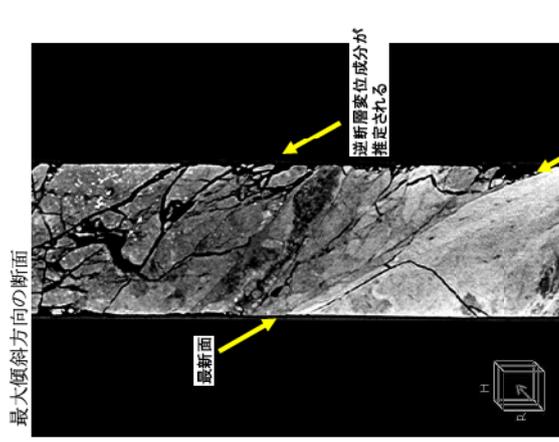
ステップの拡大写真



上盤が下盤に対し、左下方向に移動  
→右横ずれ正断層センス(糸線方向:レイク70L)

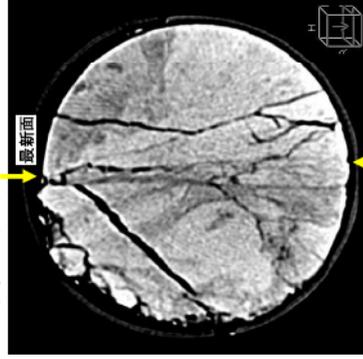
# F-6破砕帯(No.2孔 上盤下面)

## CT画像



正断層変位成分が推定される

断面面に直交、条線方向(レイク70L)に平行な断面

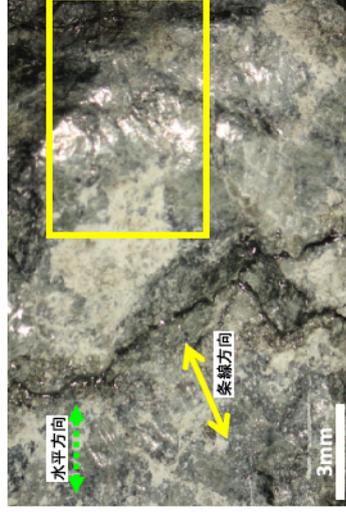


右横ずれ変位成分が推定される

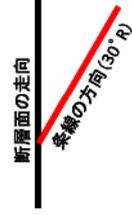
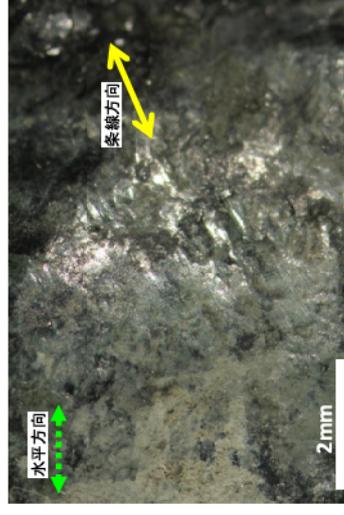


上盤下面

## 条線観察

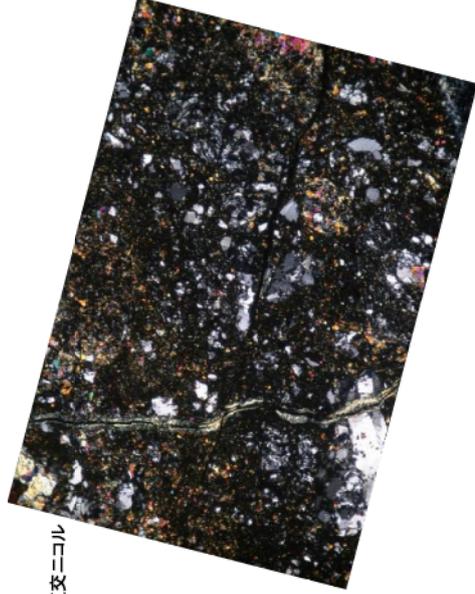
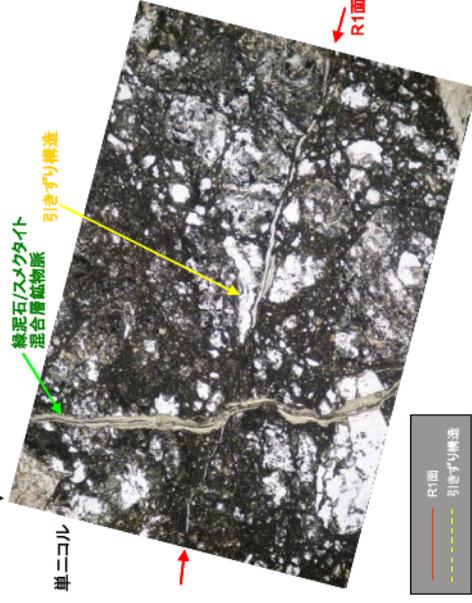
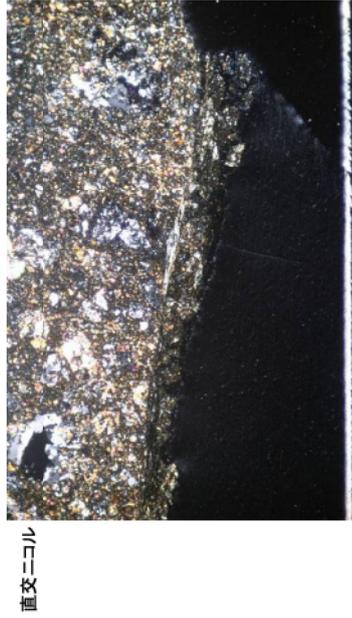
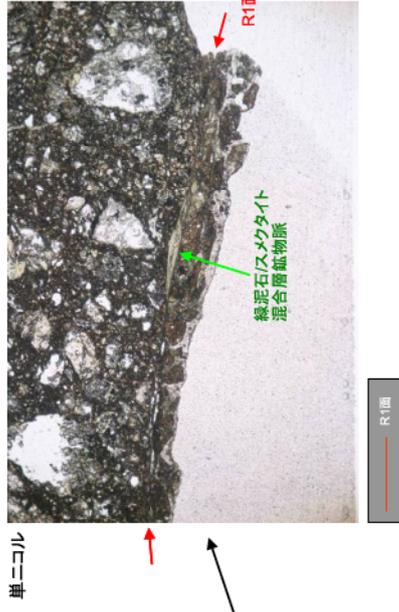
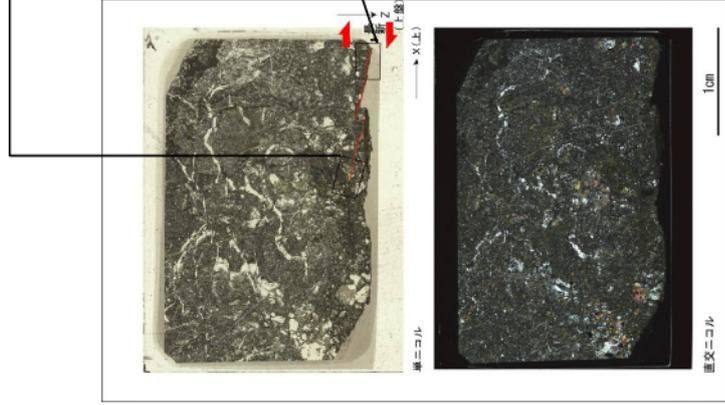


断層面の状況



変位センスは不明

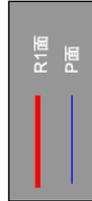
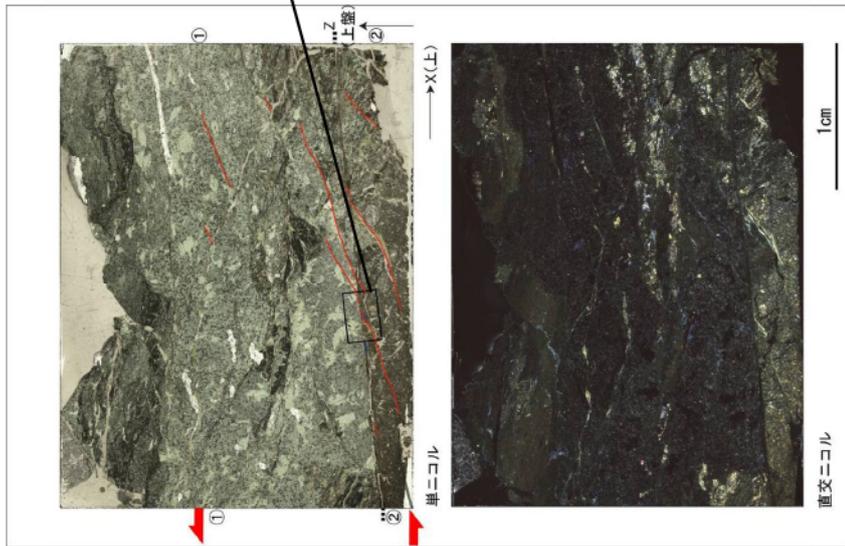
F-6破碎帯(No.2孔 下盤上面 70° L切断面)



薄片観察結果(条線方向)  
 ・最新面は、薄片の下端に位置する。最新面周辺の破碎部に、写真上見かけ右横ずれを示すR1面が認められる。  
 ・薄片最下部で見られた最新面のR1面は緑泥石/スメクタイト混合層鉱物脈を剪断していない。  
 ・最新面の走向・傾斜がN28° E-81° Wで、条線のレイク角が70° Lであることから、最新活動は正断層成分と右横ずれ成分を伴うことがわかる。

薄片観察結果  
 ・最新面周辺の破碎部に、写真上見かけ右横ずれを示すR1面及び引きずり構造が認められる。  
 ・薄片下部で見られる最新面のR1面は緑泥石/スメクタイト混合層鉱物脈を剪断していない。  
 ・最新面の走向・傾斜がN28° E-81° Wで、条線のレイク角が70° Lであることから、最新活動は正断層成分と右横ずれ成分を伴うことがわかる。

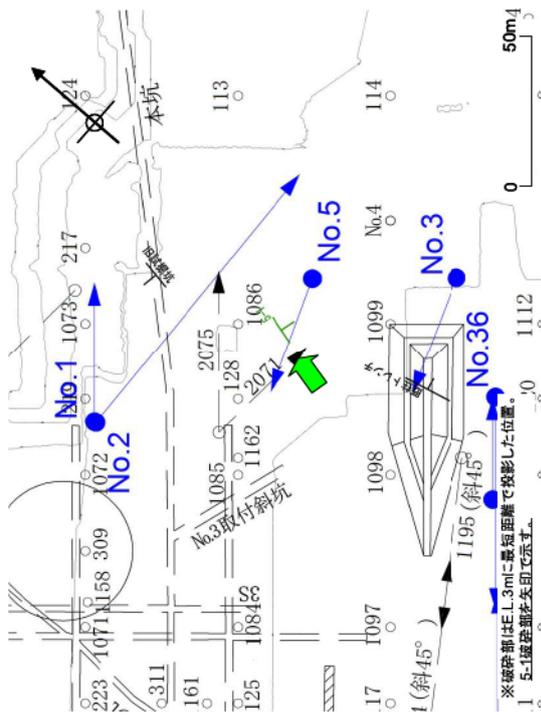
# F-6破碎帯(No.2孔 上盤下面 30° R切断面)



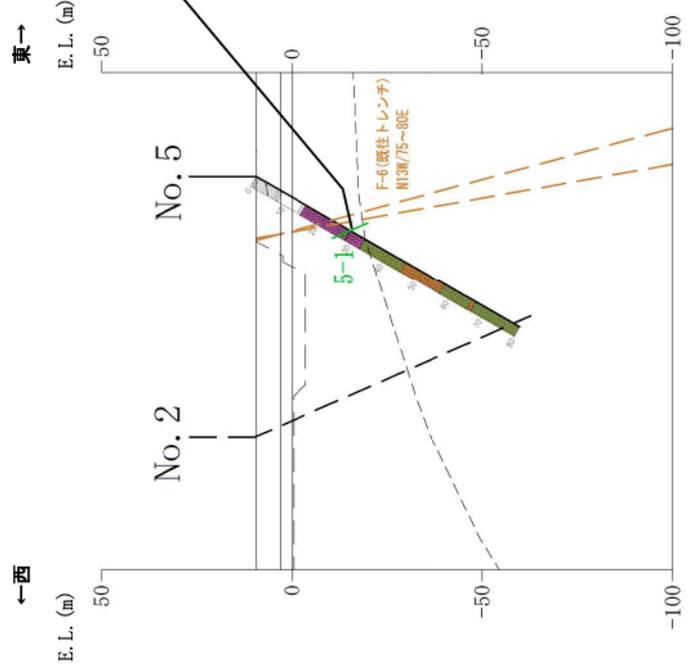
薄片観察結果  
 ・分帯: ①健岩(弱破碎部)、②中粒カタクレーサイト  
 ・レイク角30° Rの条線を確認したY面は薄片下端に位置する。  
 ・カタクレーサイト中の割れ目の多くは緑泥石/スメクタイト混合層鉱物に埋められる。  
 ・薄片中には見かけ左横ずれ成分を示すR1面とP面が認められる。  
 ・破碎帯の走向・傾斜がN28° E・81° Wであり、条線のレイク角が30° Rであることから、正断層および左横ずれ成分が読み取れる。

第 3.5.72 図(2) F-6 破碎帯 薄片観察結果 (No. 2 孔) (2)

# F-6破碎帯(No.5孔)



深度28.50m  
 ・細粒石英閃緑岩中の角礫状破砕部 (N15E/71E)  
 ・断層ガウジなし  
 ・橙褐色の細粒部を伴う。



破砕部付近拡大

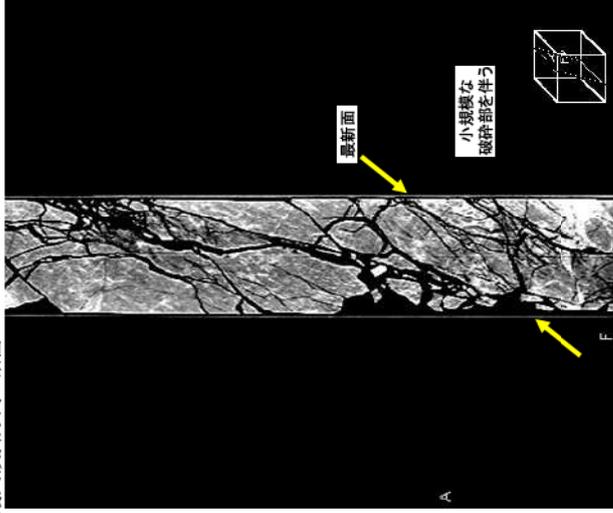


第 3. 5. 73 図 F-6 破碎帯 ボーリングコア観察結果 (No. 5 孔)

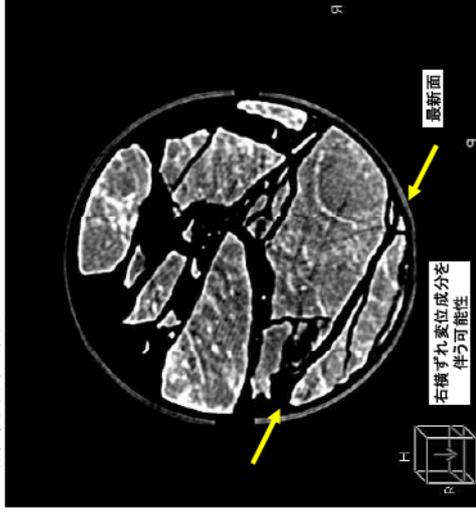
# F-6破砕帯(No.5孔)

## CT画像

最大傾斜方向の断面

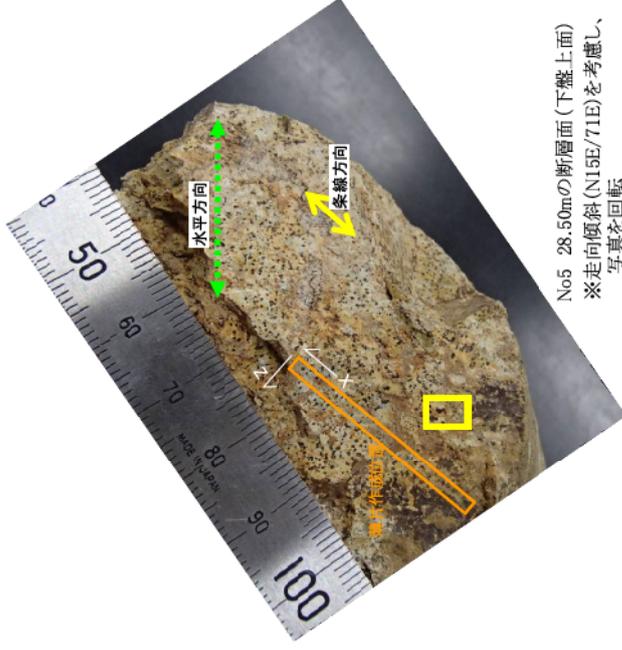


コア軸直交方向の断面



CT画像解析の結果、幅5cm~7cmの角礫状破砕部が認められる。不明瞭な右横ずれセセンスが読み取れる。

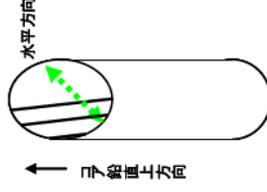
## 条線観察



No5 28.50mの断面面(下盤上面)  
※走向傾斜(N15E/71E)を考慮し、写真を回転

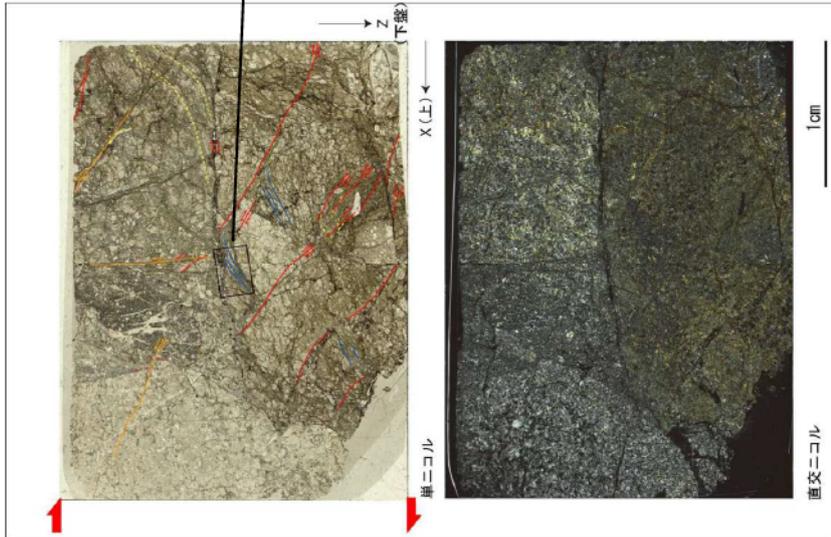
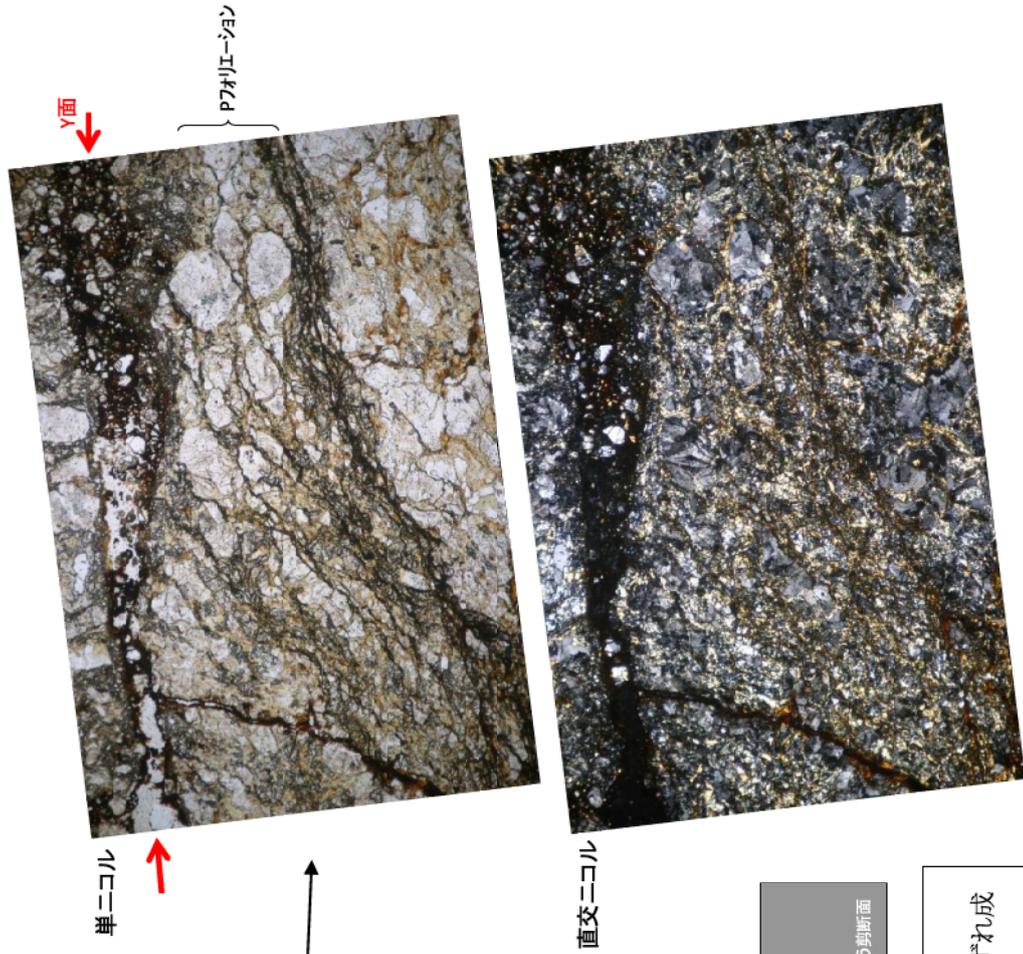


断面面上に見られる条線



不明瞭なコンタクトマーク、ステップから上盤側が左下方へ落ちる構造が読み取れる。下盤上面を上から見ているので右横ずれ正断層セセンス

# F-6 破碎帯 (No. 5 孔)

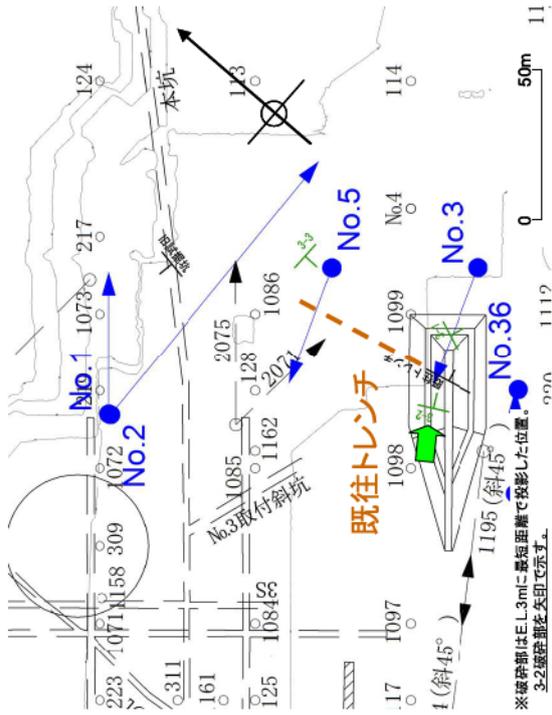


薄片観察結果 (条線方向)

- 薄片内では見かけ右横ずれ成分を示す複合面構造および見かけ左横ずれ成分を伴う微細な剪断面が認められる。
- 薄片中央部の左横ずれ剪断面は、比較的連続性の良い右横ずれ成分を伴うY面に剪断される。
- 破碎帯の走向・傾斜がN15° E・71° Eで、条線のレイクが70° Lである。
- 以上のことから、最新面は正断層成分と右横ずれ成分を伴うことがわかる。

第 3. 5. 75 図 F-6 破碎帯 薄片観察結果 (No. 5 孔)

# F-6破碎帯(No.3孔)



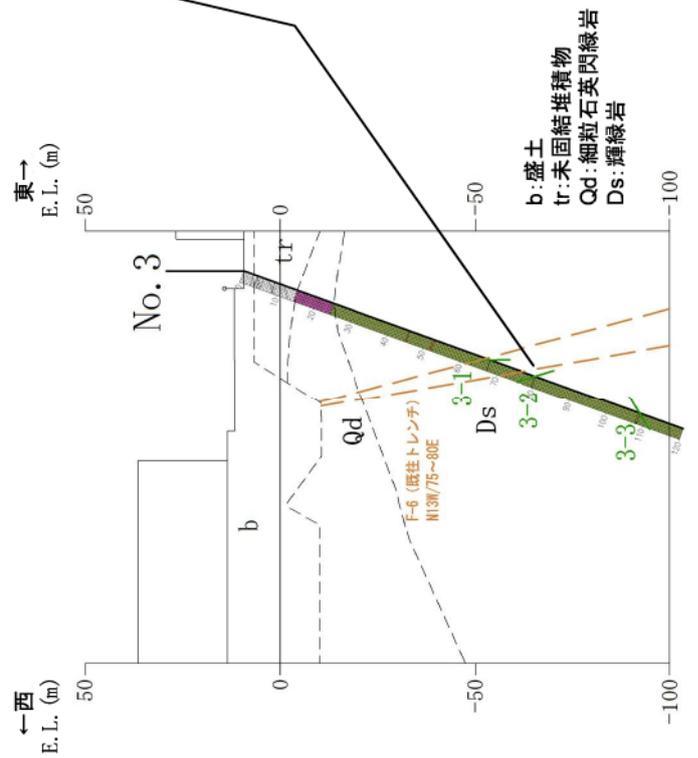
※破砕帯はE.L.3mに最短距離で投影した位置。  
3-2破砕帯は矢印で示す。

深度(m) No.3ボーリング(孔口標高: E.L.9.29m、掘進方向: 250°、掘進角度: 70°、掘進長: 120m)



深度79.50m~79.80m  
 ・輝緑岩中の幅23cmの角礫状破砕部(N28W/73E)  
 ・上下端とも境界はコアでの傾斜40°  
 ・細礫を主体とし部分的に細粒分が混じる

破砕部付近拡大

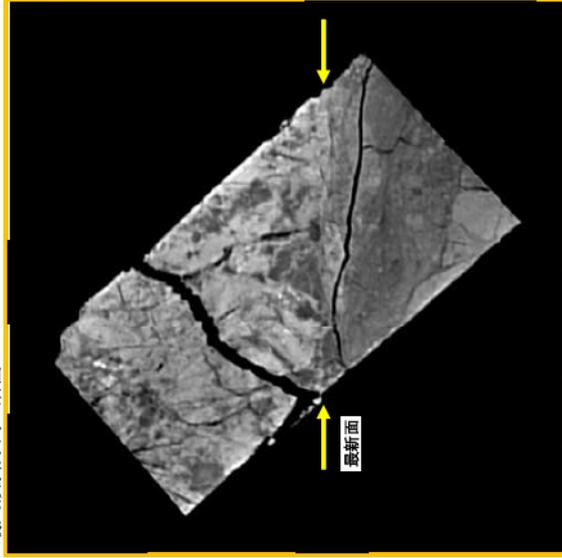


第 3.5.76 図 F-6 破碎帯 ボーリングコア観察結果 (No.3 孔)

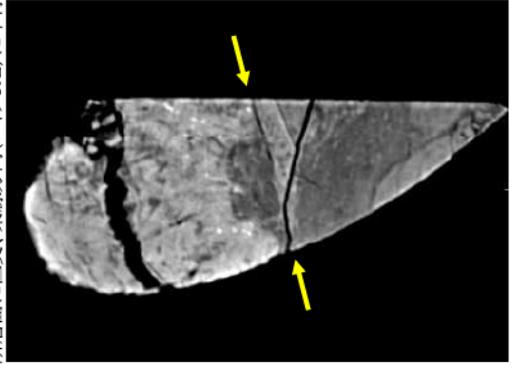
# F-6破砕帯(No.3孔)

## CT画像

最大傾斜方向の断面

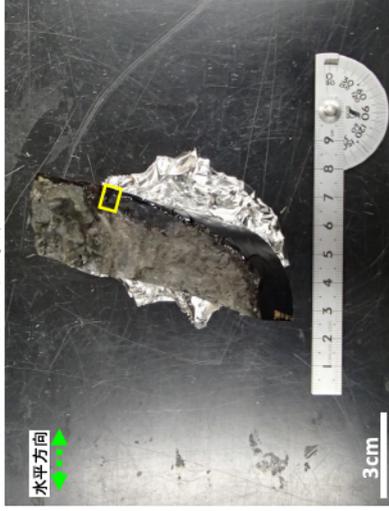


断面面に直交、条線方向(レイク40L)に平行な断面

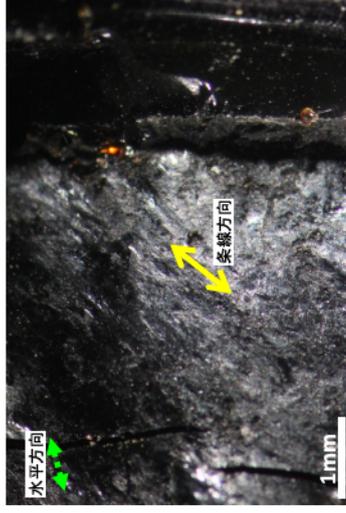


## 条線観察

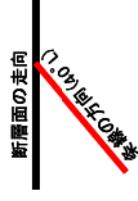
No.3 79.45m~79.55m 構造観察



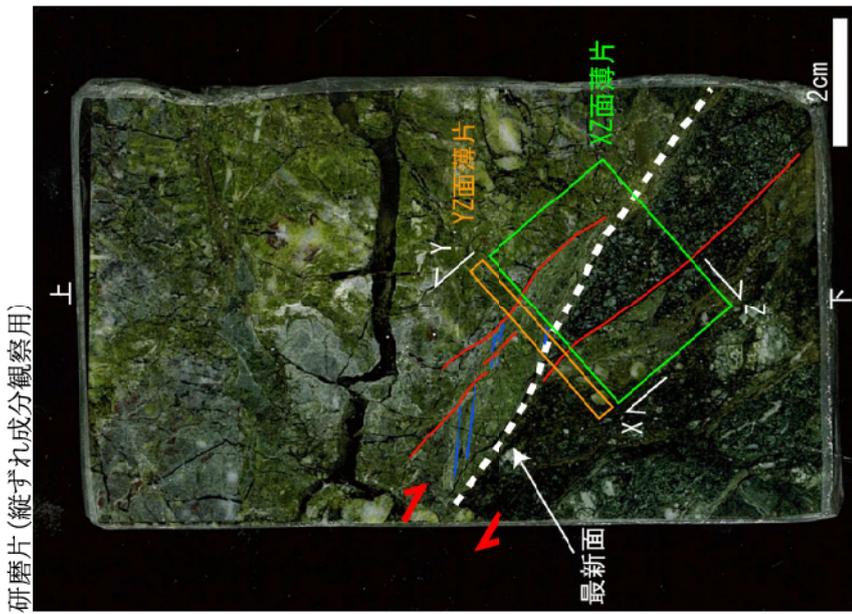
断面面(下盤上面)



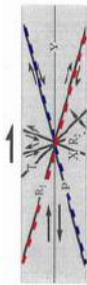
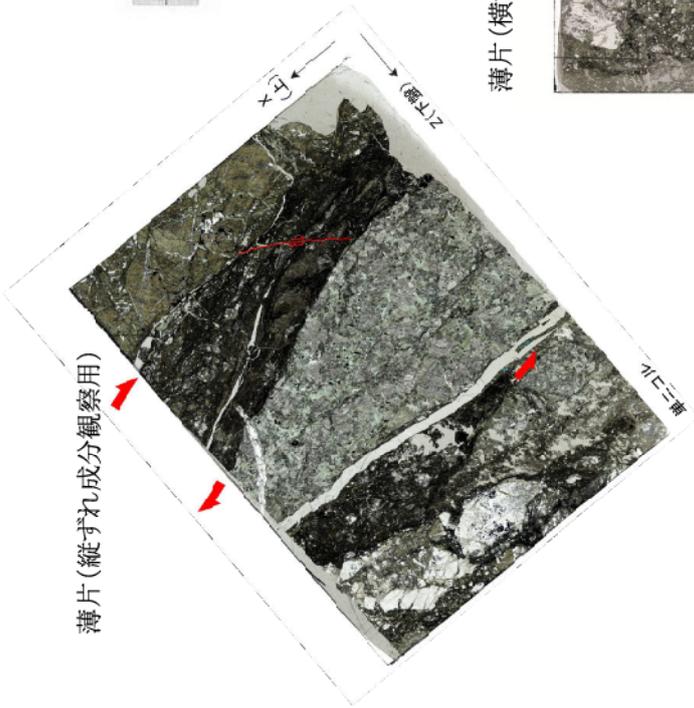
断面面の状況



# F-6 破砕帯 (No.3 孔)



薄片 (縦ずれ成分観察用)



せん断センスを示す複合面構造  
(狩野・村田, 1998)

薄片 (横ずれ成分観察用)



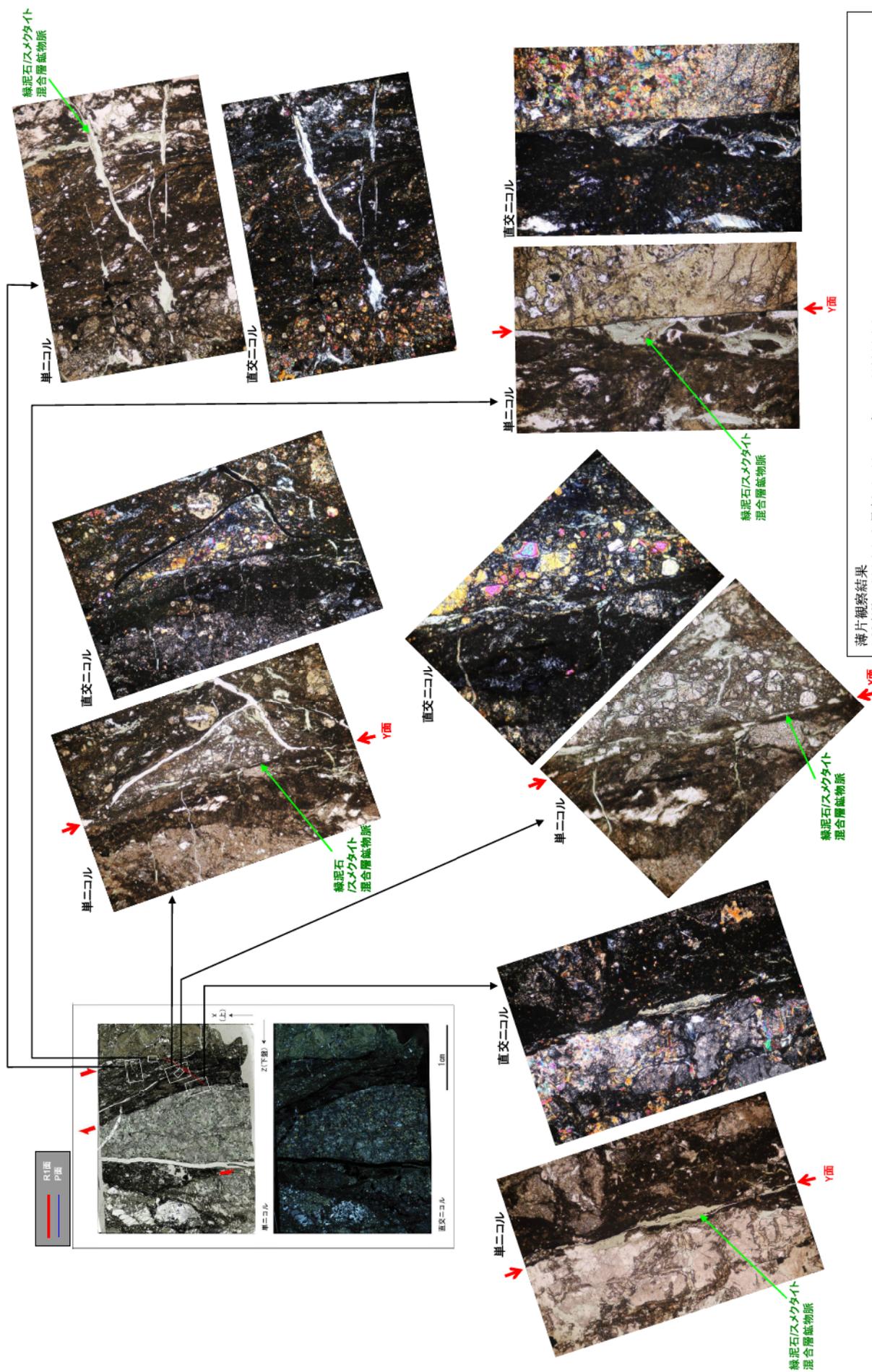
研磨片観察結果 (鉛直)  
 ・最新面 (Y面) に沿って正断層成分を示す R1面とP面が認められる。

薄片観察結果 (鉛直・水平)  
 ・最新面 (Y面) に沿って右横ずれ正断層成分を示す複合面構造が認められる。

⇒断層変位センス: 正断層, 右横ずれ

第 3.5.78 図 (1) F-6 破砕帯 薄片観察結果 (No.3 孔) (1)

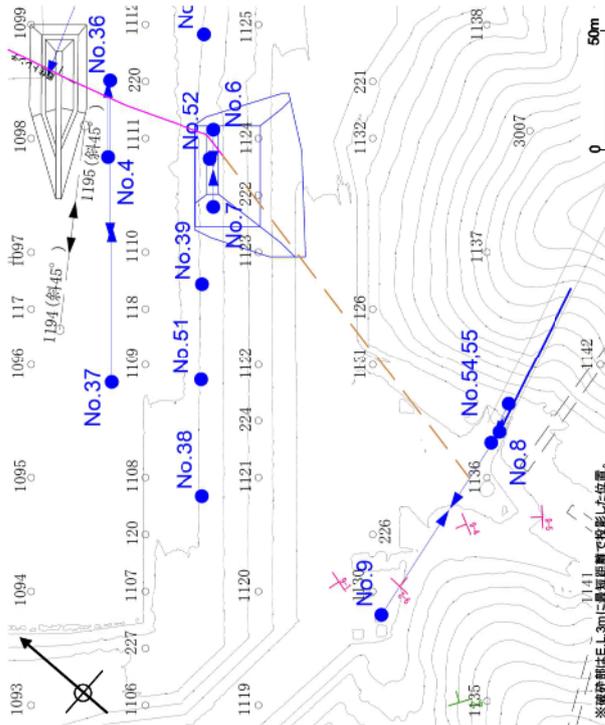
# F-6破碎帯(No.3孔)



薄片観察結果  
 ・研磨片で認められた最新面に沿って3条のY面が認められる。  
 ・いずれのY面も綠泥石/スメクタイト混合層鉱物の結晶が脈状に充填しており、その結晶は破碎されていない。  
 ・これらのY面周辺の破碎部の割れ目にも綠泥石/スメクタイト混合層鉱物脈が充填しており、破碎されていない。

第 3.5.78 図(2) F-6 破碎帯 薄片観察結果 (No.3 孔) (2)

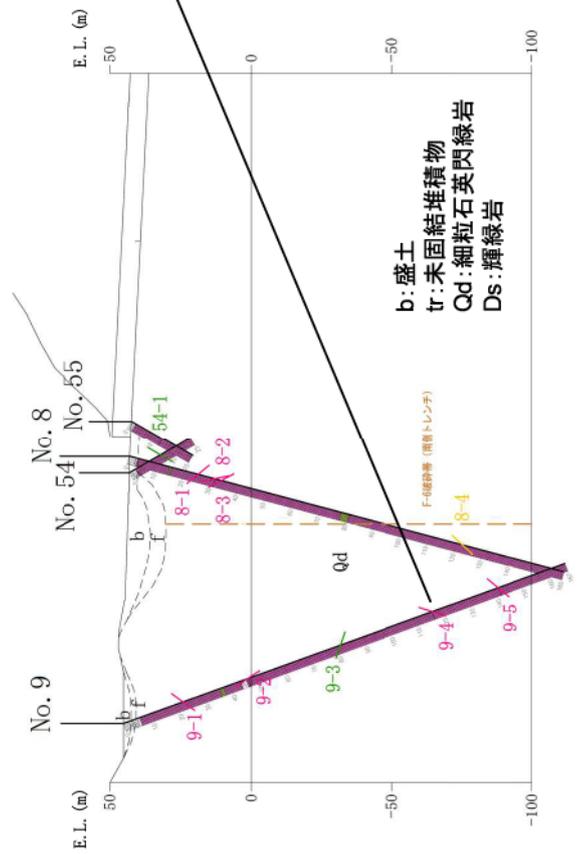
# F-6 破碎帯 (No.9 孔)



No.9ボーリング(孔口標高: E.L.45.15m、掘進方向: 82°、掘進角度: 70°、掘進長: 167m)

深度116.45m~116.65m  
 ・細粒石英閃緑岩中の固結した  
 角礫状破碎部 (N27E/76W)  
 ・傾斜30°、幅14cm。下端に連続性  
 の悪い、幅5mm以下の灰色細粒部  
 を挟在する

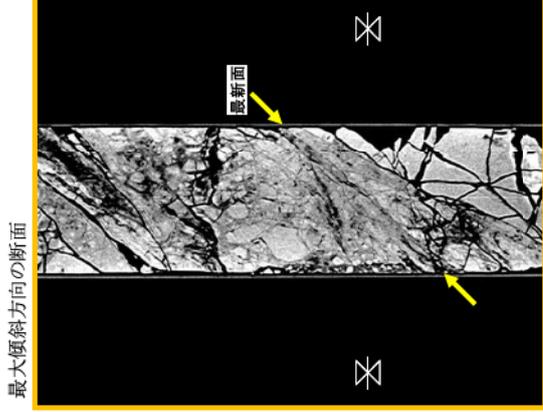
破碎部付近拡大



第 3.5.79 図 F-6 破碎帯 ボーリングコア観察結果 (No.9 孔)

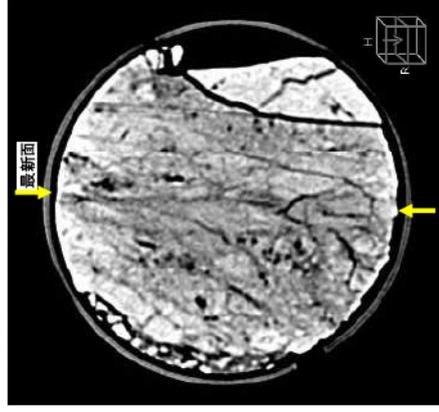
# F-6破砕帯(No.9孔)

## CT画像



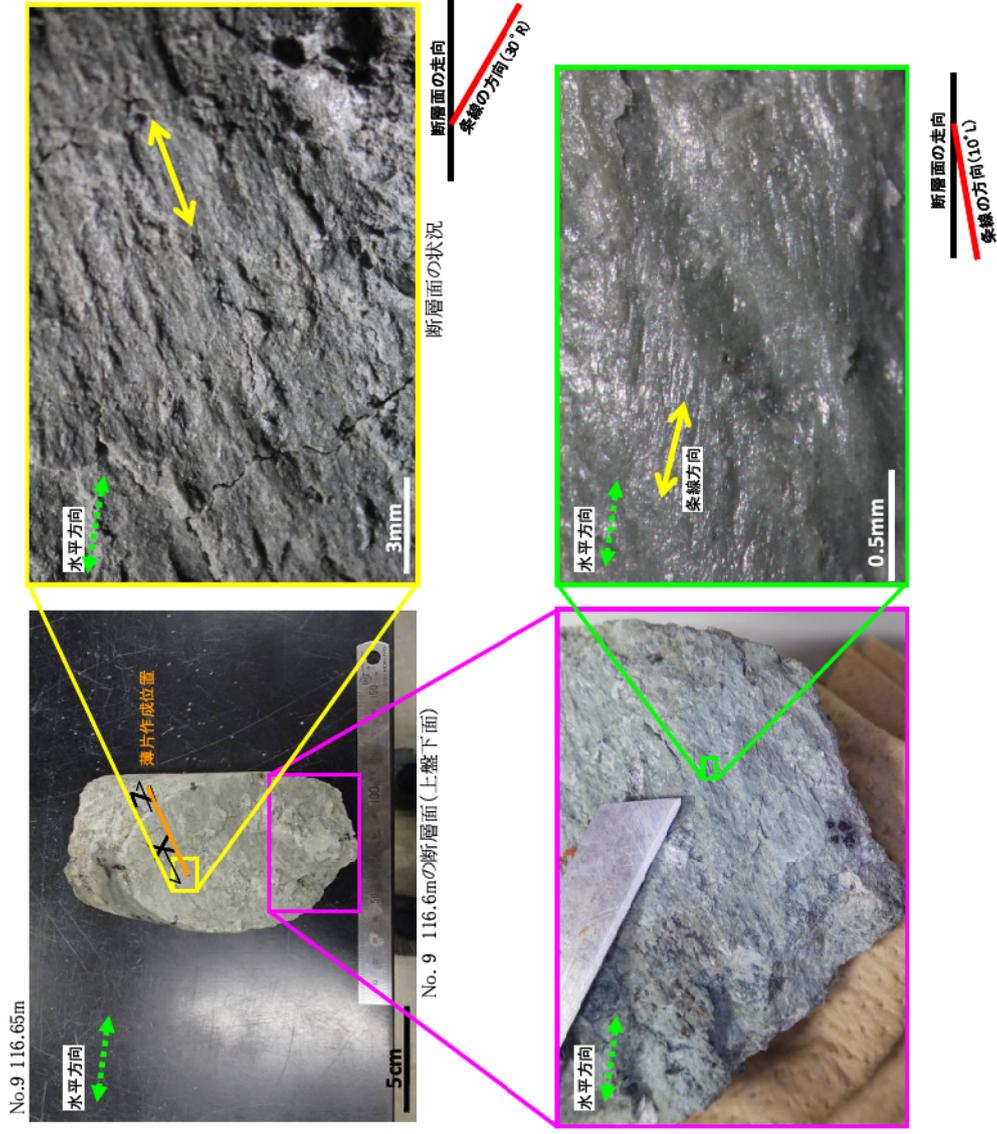
変位センサは不明瞭

## コア軸直交方向の断面

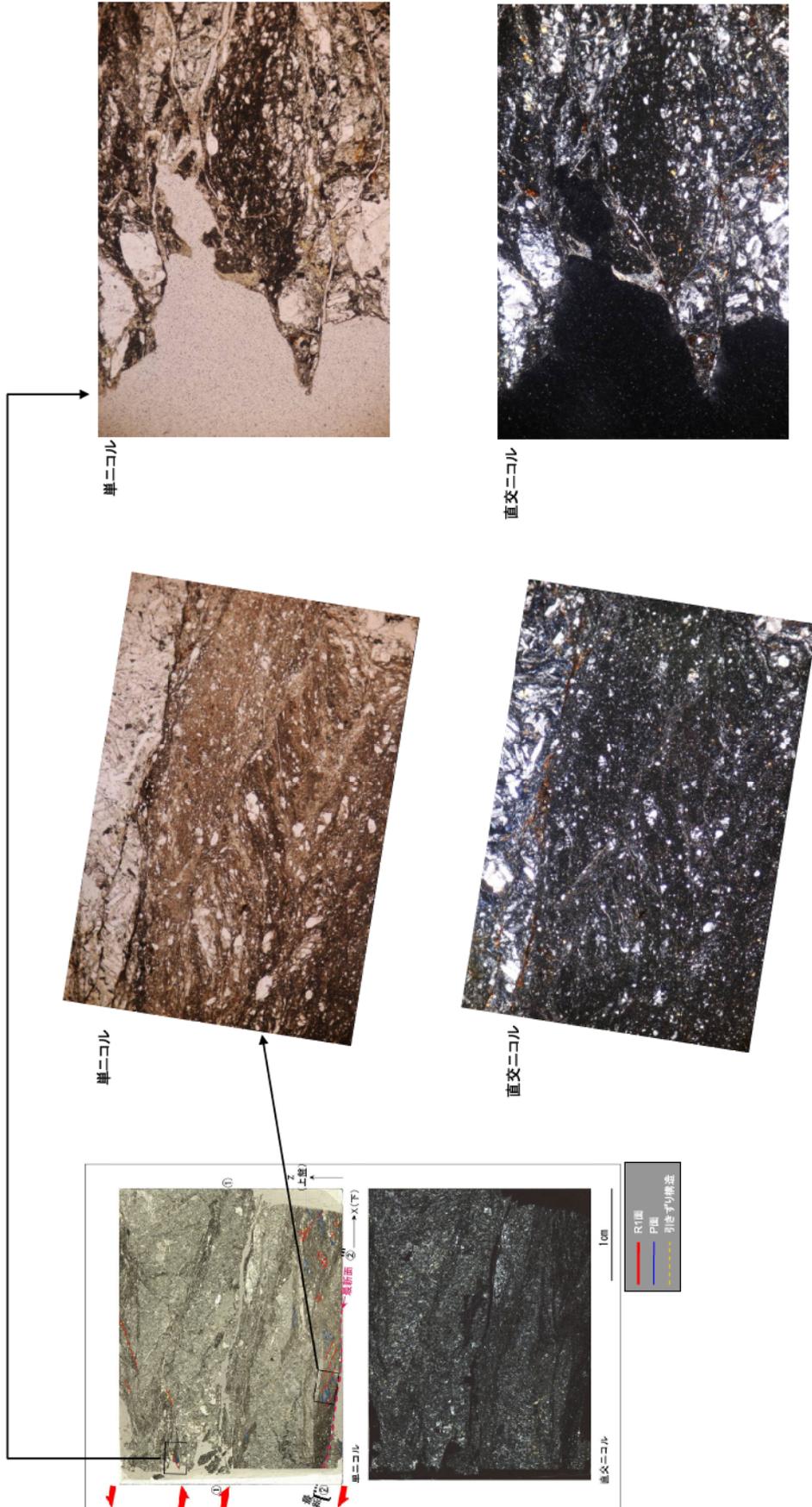


左横ずれ変位成分が推定される。

## 糸線観察



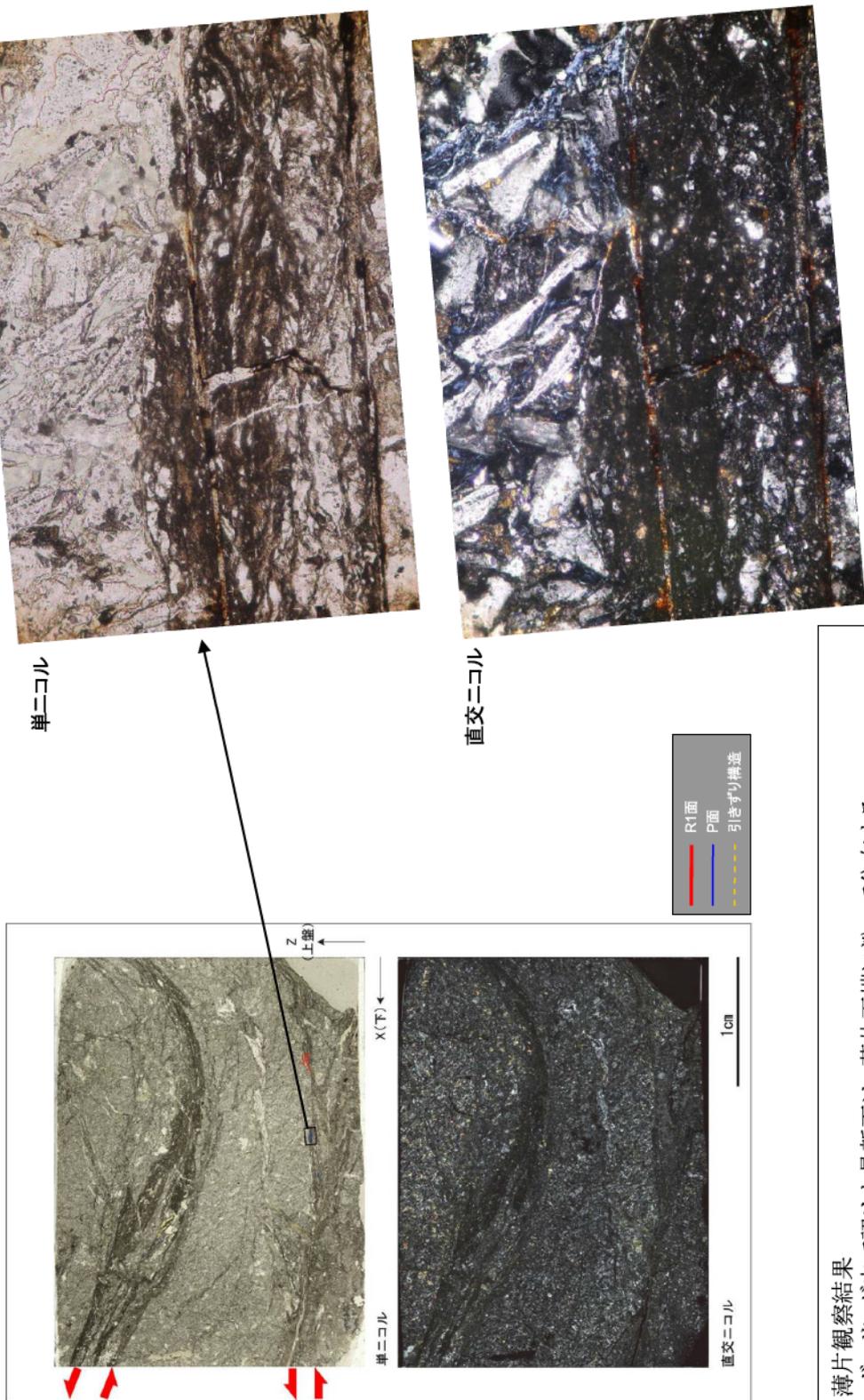
# F-6破砕帯(No.9孔 10° L切断面)



薄片観察結果

- 分帯:①カタクレサイト、②粘土混じり角礫(最新部)
- ボーリング中で認めた最新面は、薄片下部に分布する。
- 見かけ右横ずれ成分を示すR1面やP面、引きずり構造が最新部(②)や①下部に認められる。
- 見かけ左横ずれ成分を示すR1面やP面、引きずり構造が①上部に認められる。
- 破砕帯の走向・傾斜がN27° E・76° Wであり、条線のレイク角が10° Lであることから、最新活動は正断層および右横ずれ成分を伴うことがわかる。さらに、運動成分が左横ずれから右横ずれに反転した可能性がある。

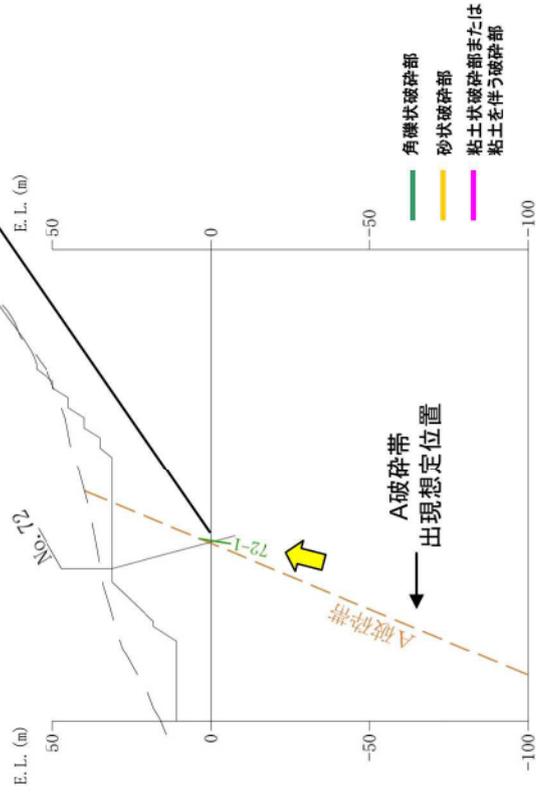
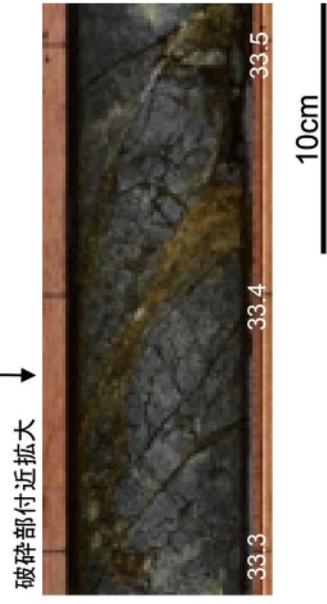
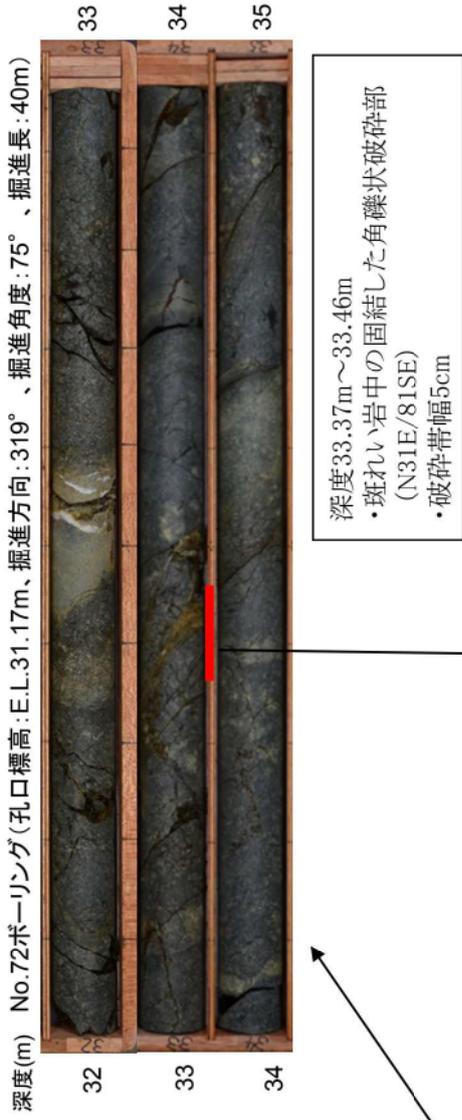
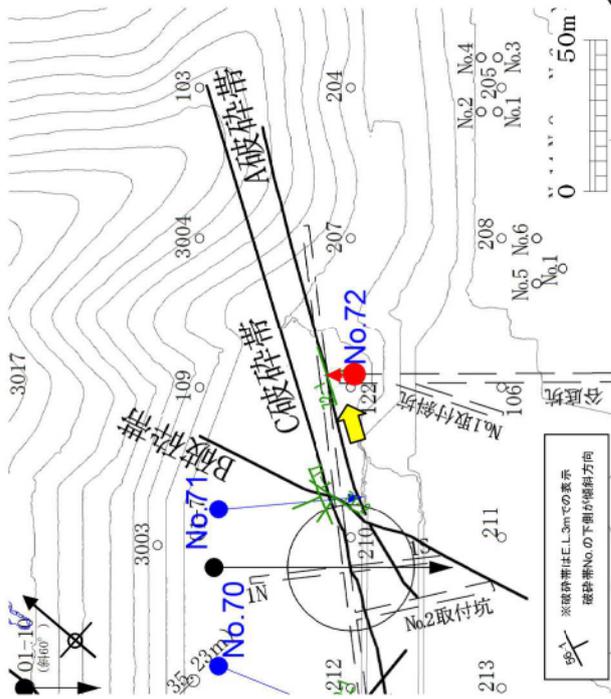
# F-6破砕帯(No.9孔 30° R切断面)



## 薄片観察結果

- ボーリング中で認めた最新面は、薄片下端に沿って分布する。
- カタクレーサイトが分布しており、薄片の中央部と上部には健岩が認められる。
- 見かけ左横ずれ成分を示すR1面やP面、引きずり構造が認められる。
- 破砕帯の走向・傾斜がTN27° E・76° Wであること、条線のレイク角が30° Rであることから、最新活動は正断層および左横ずれ成分を示す可能性がある。

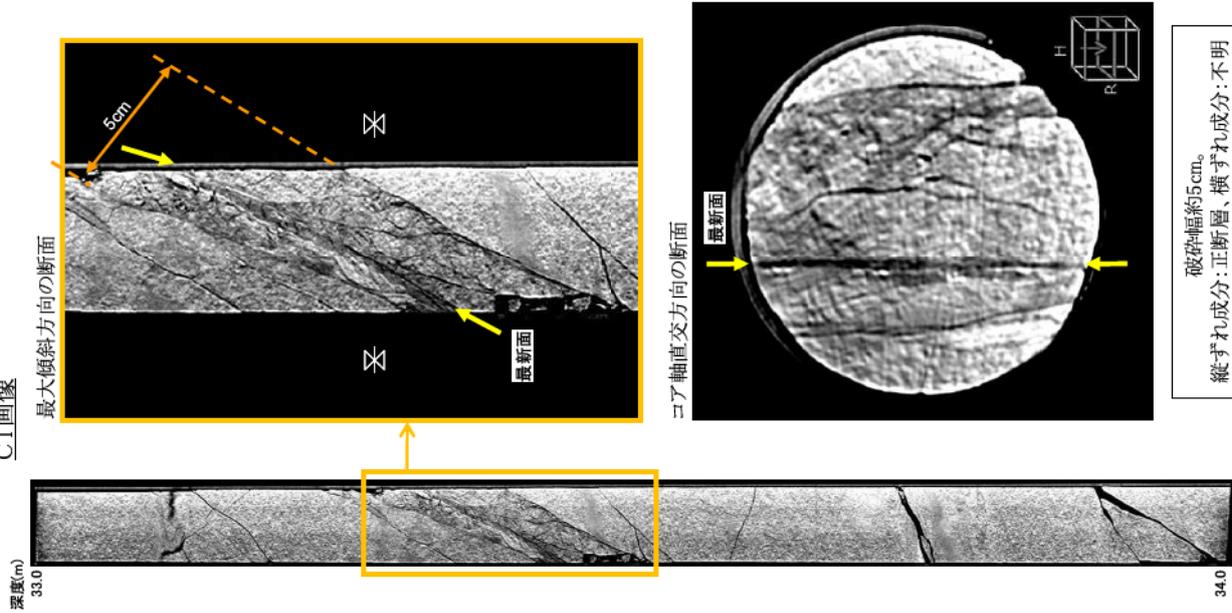
# A破砕帯(No.72孔)



第3.5.82 図 A破砕帯 ボーリングコア観察結果 (No. 72孔)

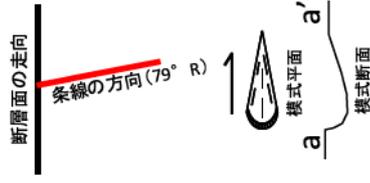
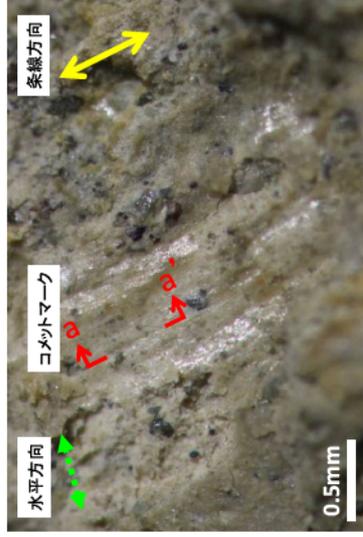
# A破砕帯(No.72孔)

## CT画像



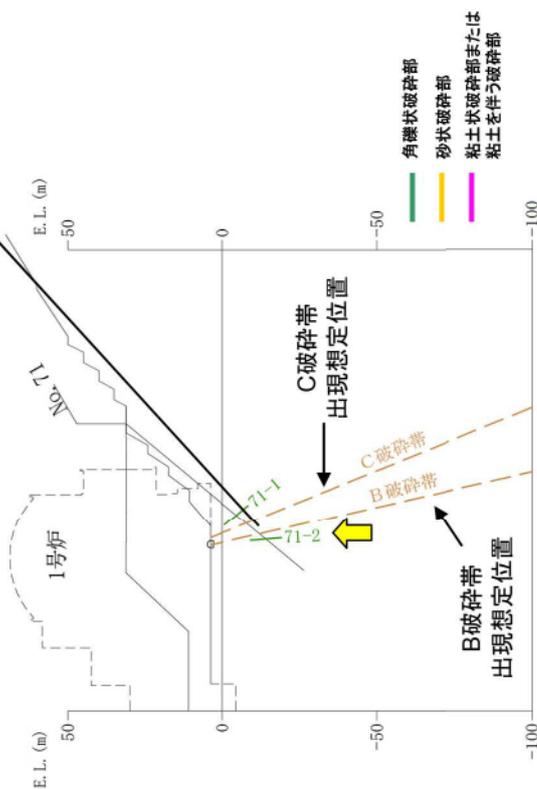
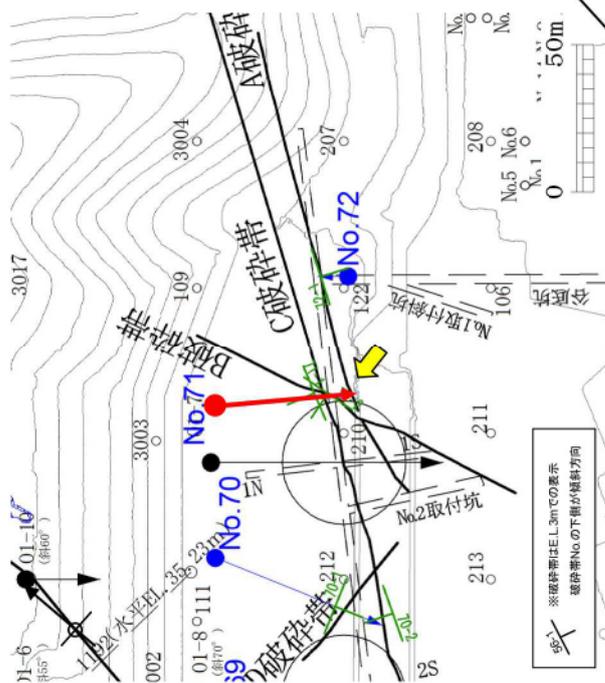
縦ずれ成分: 正断層、横ずれ成分: 不明  
破砕幅約5cm。

## 糸線観察



レイク79° Rの左横ずれ・  
正断層センスが認められた

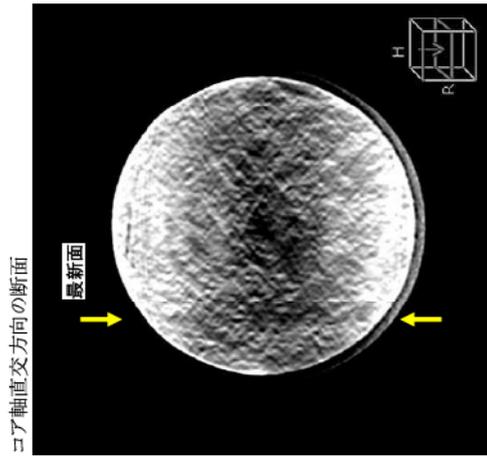
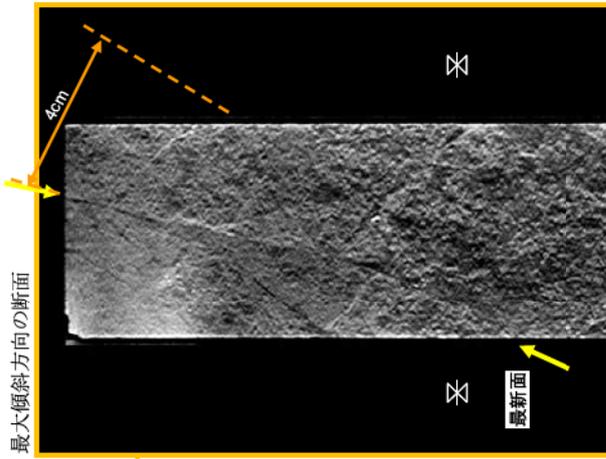
# B破砕帯(No.71孔)



第 3.5.84 図 B破砕帯 ボーリングコア観察結果 (No. 71 孔)

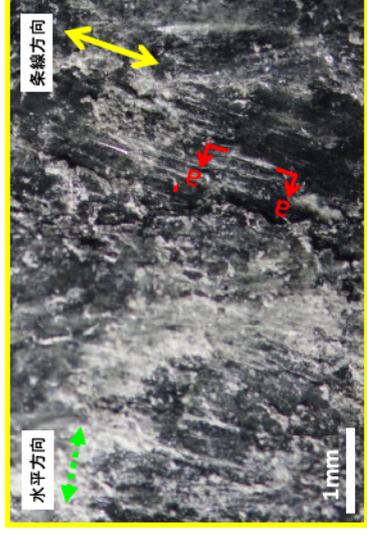
# B破砕帯(No.71孔)

## CT画像



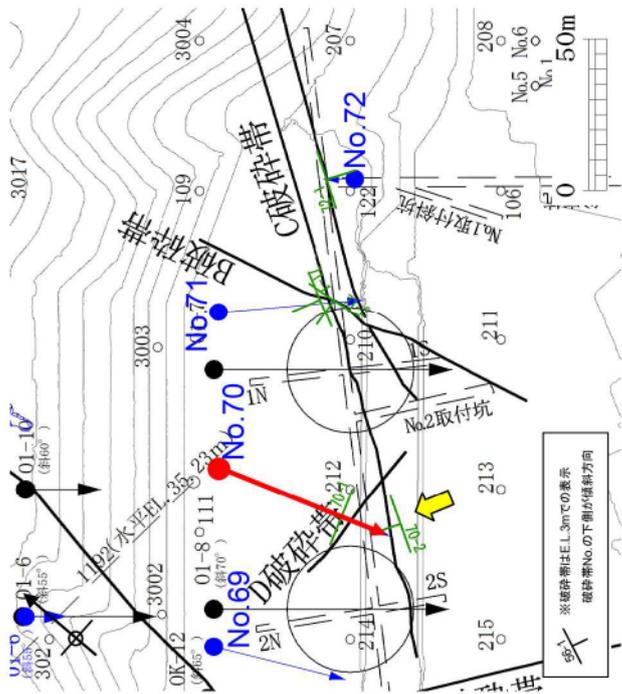
破砕幅4cm。  
縦ずれ成分：不明、横ずれ成分：不明

## 条線観察

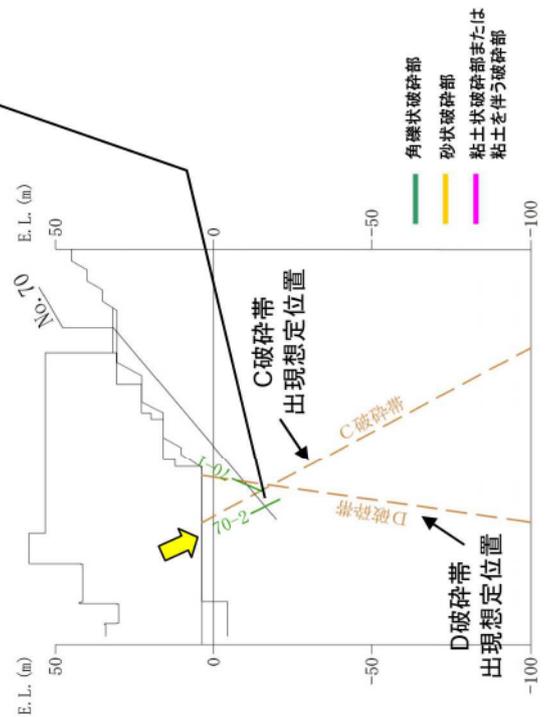
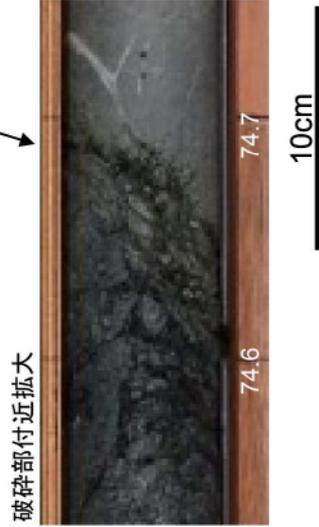


レイク82° Lの左横ずれ・逆断層センスが認められた

# C破砕帯(No.70孔)



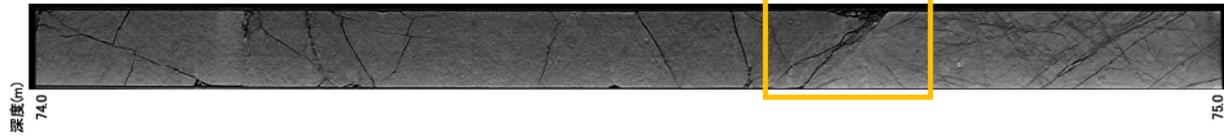
深度74.63m~74.66m  
 ・輝緑岩中の固結した角礫状破砕部  
 (N30E/68NW)  
 ・破砕帯幅4cm



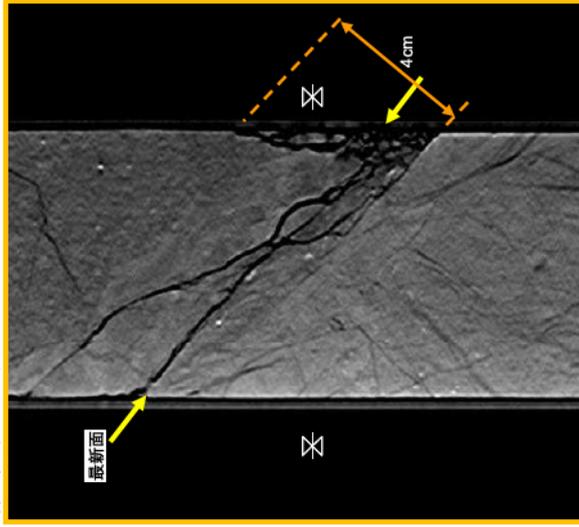
第 3.5.86 図 ボーリング C 破砕帯 ボーリングコア観察結果 (No. 70 孔)

# C破砕帯(No.70孔)

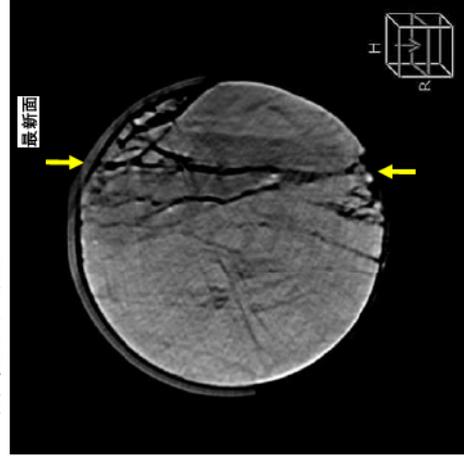
## CT画像



最大傾斜方向の断面

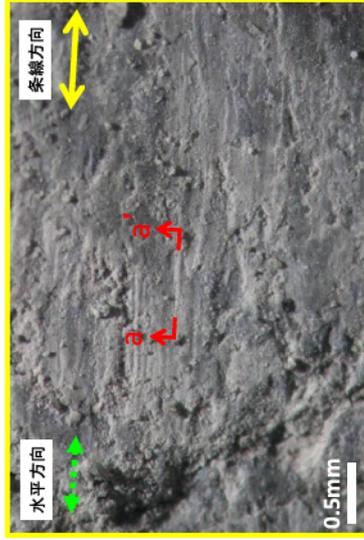
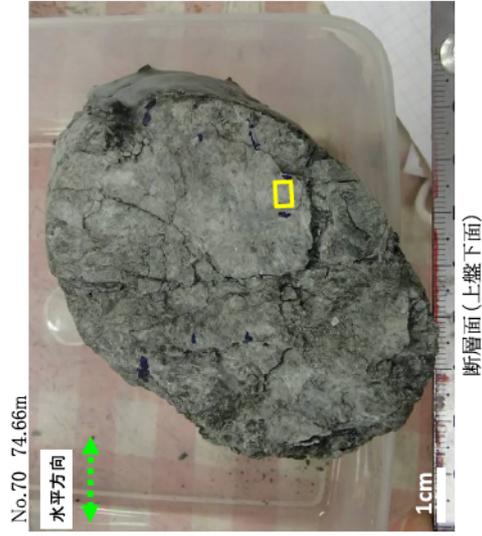


コア軸直交方向の断面



縦ずれ成分:不明、横ずれ成分:不明  
破砕層約4cm。

## 条線観察



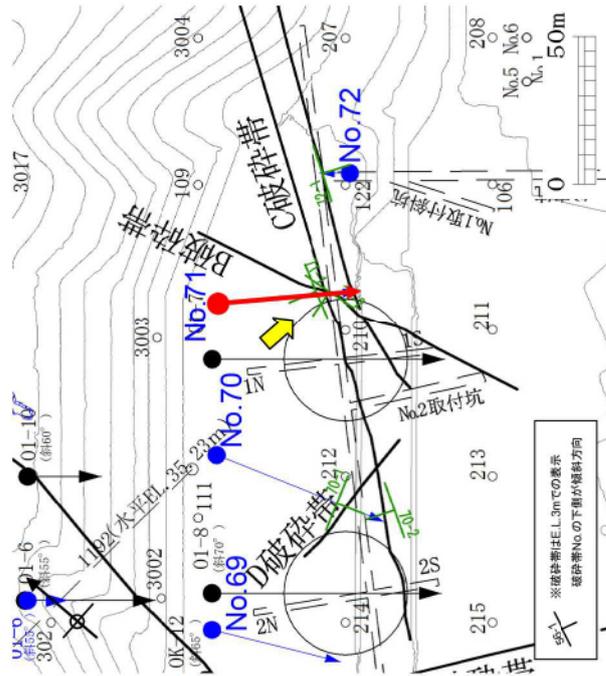
断層面の状況  
右横ずれ

断層面の走向  
条線の方向(0°)

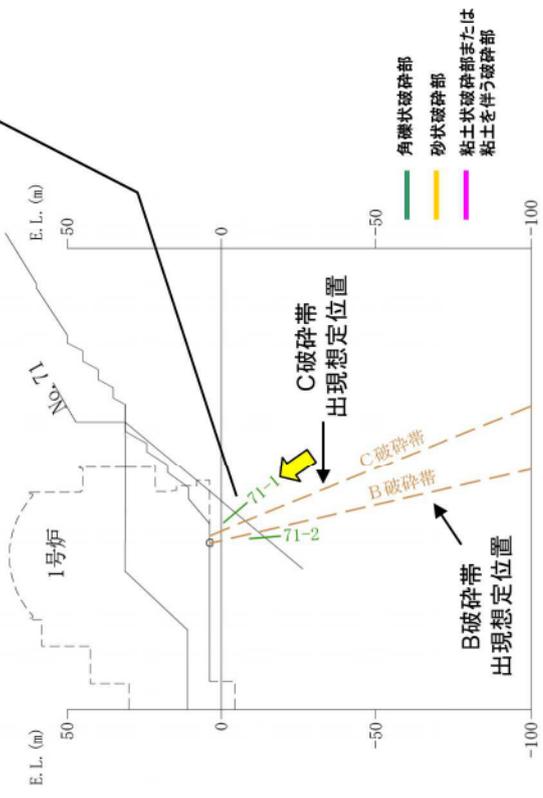
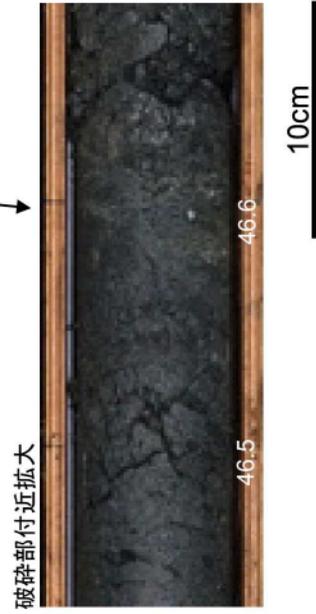


レイク0°の右横ずれセンスが  
認められた

# C破砕帯(No.71孔)

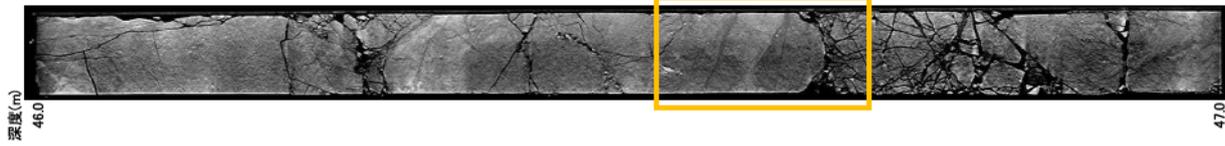


深度46.56m~46.60m  
 ・輝緑岩中の固結した角礫状破砕部  
 (N26E/61W)  
 ・破砕帯幅4cm

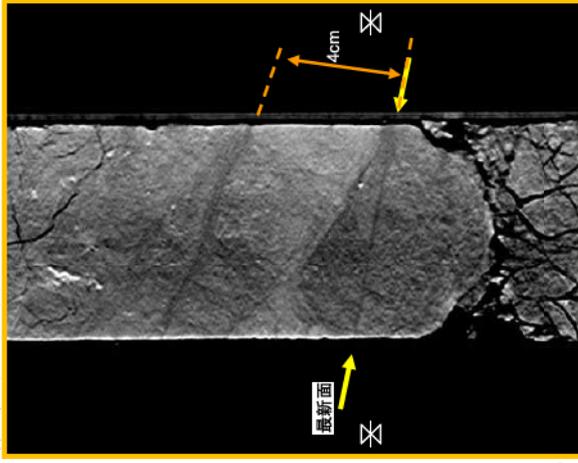


# C破砕帯(No.71孔)

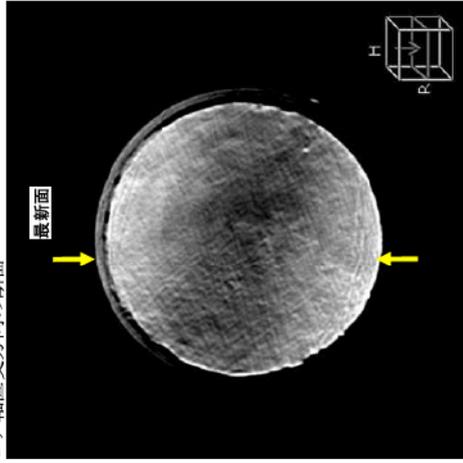
## CT画像



最大傾斜方向の断面



コア軸直交方向の断面

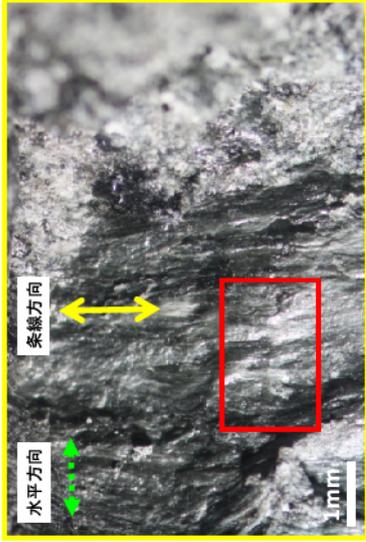


破砕幅約4cm。  
縦ずれ成分：正断層、横ずれ成分：不明

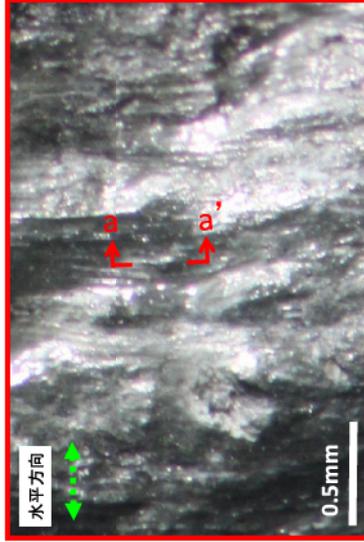
## 肉眼観察



断層面(上盤下面)



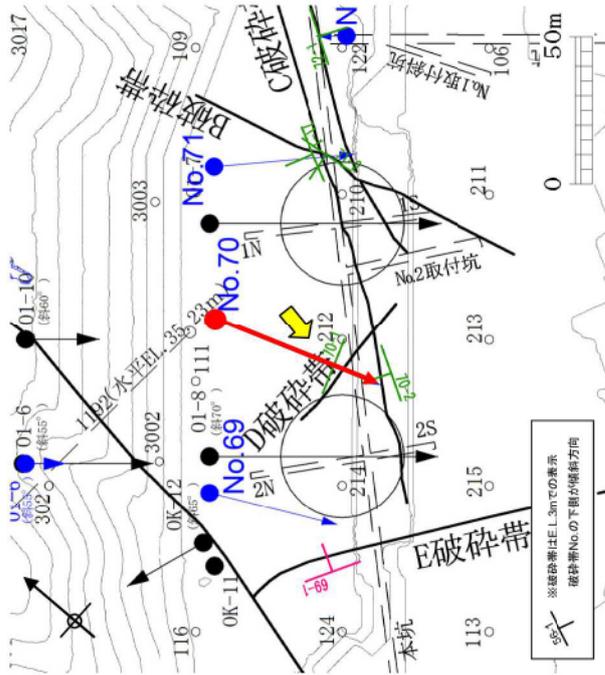
断層面の状況



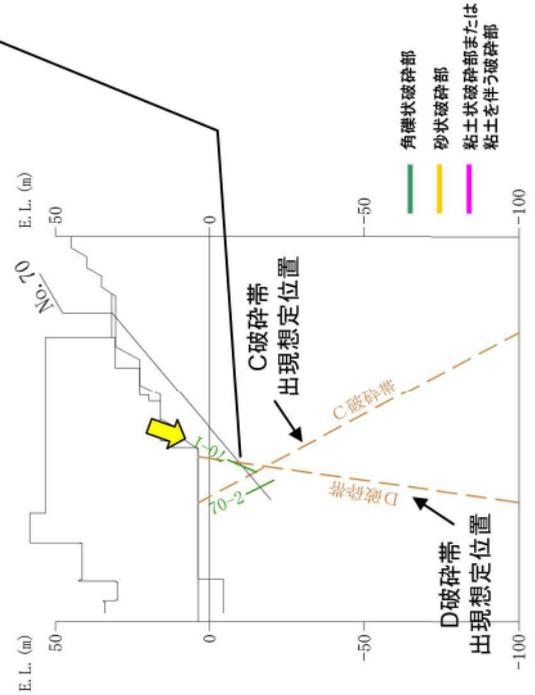
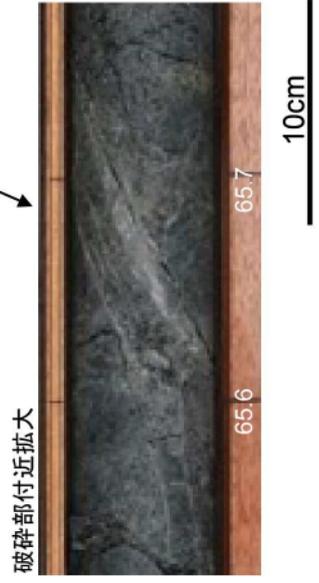
正断層

レイク90°の正断層センスが認められた

# D破砕帯(No.70孔)



深度65.64m~65.70m  
 ・輝緑岩中の固結した角礫状破砕部 (N71E/65S)  
 ・破砕帯幅3.5cm



第 3.5.90 図 ボーリング帯 D 破砕帯 ボーリングコア観察結果 (No. 70 孔)